函館港湾事務所におけるSDGsの達成に資する取組について

私ども函館港湾事務所では、以下の取組をはじめとする各種取組を通じてSDGs（持続可能な開発目標）の達成に貢献するとともに、函館港など管内の港湾整備と港湾振興活動を通じ、地域の一層の発展を図って参ります。

基幹産業の持続的な発展を支える

国際観光都市・函館の中心市街地に位置する函館港若松地区では、既存係留施設等の改良に合わせ、クルーズ船の係留も可能とする整備が進められており、渡島地域の観光産業への経済波及効果促進が期待されています。
地域の基幹産業である水産品の輸出を支えている森港、椴法華港では、波浪を減少させるための外郭施設や船舶を安全に係留させるための施設整備を進めていきます。

みなとを核とした魅力あるまちづくり

函館港ではクルーズ船の寄港時のおもてなし活動を「みなとオアシス函館運営協議会」、「遺愛女子校」と積極的に協力しながら進めています。また、函館港湾事務所では、周辺の学校や市民などを対象に「みなと見学会」「出前講座」を開催し、生活に欠かせない港の役割等の理解醸成を図っています。この他、女性技術者による交流会や安全パトロール等女性の参画機会の確保に取り組んでいます。このような取り組みを通じてみなとを核としたまちづくり・交流機会増に貢献していきます。

【目標】 2022年度7回→2023年度10回　※みなと見学会＋出前講座

江差港湾事務所におけるSDGsの達成に資する取組について

私ども江差港湾事務所では、以下の取組をはじめとする各種取組を通じてSDGs（持続可能な開発目標）の達成に貢献するとともに、江差港など管内の港湾整備と港湾振興活動を通じ、地域の一層の発展を図って参ります。

地域における産業とくらしを守る

奥尻港は、奥尻島内唯一の港湾として、島内で営まれる消費、生産等の諸活動に要する物資の取扱港として重要な役割を果たしています。この奥尻港と本土とを結ぶ唯一のフェリー航路の発着港となっている江差港において、老朽化の著しいフェリー岸壁の整備を進めています。また、瀬棚港は、主要貨物である砂、石材等の安全な積み出しのため、防波堤の整備を進めています。今後も、離島の生活や観光、地域産業の基盤として必要不可欠な港湾整備を実施していきます。

みなとを核とした魅力あるまちづくり

みなとオアシス江差では、訪れる市民や観光客に、美しい自然景観と町の歴史を活かした交流空間や、さまざまなサービスやイベント情報などを提供しています。今後も引き続き、みなとオアシス青函圏連携や北海道新幹線の開業などにともなう、人流・物流の拠点としてさらなる地域の魅力の向上を目指し、より一層の道南地域の発展を図っていきます。

小樽港湾事務所におけるSDGsの達成に資する取組について

私ども小樽港湾事務所では、以下の取組をはじめとする各種取組を通じてSDGs（持続可能な開発目標）の達成に貢献するとともに、小樽港や石狩湾新港など管内の港湾整備と港湾振興活動を通じ、地域の一層の発展を図って参ります。

クルーズ振興による地域活性化に貢献

小樽運河等の多数の人気観光施設のほか、中心市街地商業地区やJR小樽駅に近く、利便性の高い立地環境に位置している小樽港第3号ふ頭において、既存係留施設の改良に合わせ、グルーズ船の係留も可能とする岸壁改良事業を行っています。また、背後圏に世界有数の観光地であるニセコを有する岩内港においてもクルーズ船の寄港による交流人口の増加が期待されており、周辺地域の経済に大きく貢献しています。

第３号ふ頭に入港する
にっぽん丸とバイキング・オリオン

岩内港に入港する
ぱしふぃっくびいなす

エネルギー拠点港としての使命

石狩湾新港では水深14m航路の整備により、北海道唯一の外航大型LNG船の受入基地となる石狩LNG基地の運転が開始され、北海道内で消費される天然ガスの殆どがここから出荷されています。また、港湾区域内で令和5年度稼働予定の洋上風力発電工事が着手されており、西地区水深14m岸壁など洋上風力発電の拠点としても非常に重要な役割を担っています。これからも港湾管理者等と連携し、エネルギー拠点港としての機能向上を推進して参ります。

【出典】北海道ガス株式会社HP

洋上風力鋼管杭打設状況

先人から受け継いだ港湾の技術力を後生へ

小樽港北防波堤は建設から120年以上経過した今なお、倒壊することなく建設当時の状態をほぼ維持し続けております。小樽港湾事務所内にある「みなとの資料コーナー」では、このような歴史的な価値が非常に高い資料を一般に公開し、港湾に関する理解を深め親しみを抱いてもらえるよう取組んでいます。また、近隣の小中学校を対象とした「みなと見学会」や「出前講座」を通じ、後生へ港湾の技術力伝承に今後とも取り組んでいきます。

現在も活躍する北防波堤の斜塊部

資料コーナーを活用した「みなと見学会」

【目標】 2022年度：20回／年 → 2023年度：20回／年 ※みなと見学会＋出前講座

室蘭港湾事務所におけるSDGsの達成に資する取組について

私ども室蘭港湾事務所では、以下の取組をはじめとする各種取組を通じてSDGs（持続可能な開発目標）の達成に貢献するとともに、室蘭港の港湾整備と港湾振興活動を通じ、地域の一層の発展を図って参ります。

カーボンニュートラルの実現を目指して

室蘭港におけるカーボンニュートラルポート（以下、CNP）の実現に向け、室蘭市では官民一体となった「室蘭港CNP協議会」を設立し、港湾における脱炭素化に向けた取組を行うための検討を進めています。本協議会には、当事務所も参画しており、関係機関と連携の上、CNPの形成に向けた検討を進めて参ります。

室蘭港CNP協議会

クルーズ振興による地域活性化

室蘭港では、既存係留施設の改良に合わせ、クルーズ船の係留も可能とする岸壁改良事業を行っています。加えて、クルーズ船の寄港時には地域一丸となっておもてなし活動を進めています。
クルーズ船の受け入れにより、市内の観光施設に加えて、周辺の観光地とも連携することにより、にぎわい・交流拠点として地域活性化に寄与します。

室蘭港クルーズ船係留状況

みなとに対する学習機会の提供

室蘭港湾事務所では、周辺の学校や住民などを対象に港湾施設やみなとの役割等を紹介する、「みなと見学会」や「出前講座」を開催しています。
「みなと見学会」では港湾業務艇に乗船し、海の上（船上）から実際に見学し、「みなと」への理解を深めてもらう取組を実施しています。

【目標】 2022年度：2回／年 → 2030年度：3回／年 ※みなと見学会＋出前講座

みなと見学会、出前講座実施状況

苫小牧港湾事務所におけるSDGsの達成に資する取組について

私ども苫小牧港湾事務所では、以下の取組をはじめとする各種施策通じてSDGs（持続可能な開発目標）の達成に貢献するとともに、苫小牧港など管内の港湾整備と港湾振興活動を通じ、地域の一層の発展を図って参ります。

カーボンニュートラルの実現を目指して

苫小牧港におけるカーボンニュートラルポート（以下、CNP）の実現に向け、苫小牧港管理組合と北海道開発局港湾空港部では官民一体となった「苫小牧港CNP検討会」を設立し、港湾における脱炭素化に向けた取組を行うための検討を進めています。本検討会には当事務所も参画しており、関係機関と連携の上、CNPの形成に向けた検討を進めて参ります。

苫小牧港CNP検討会

基幹産業の持続的な発展を支える

苫小牧港は、北海道のみならず我が国の産業・経済を支える北日本最大の物流拠点であり、主に岸壁整備を進めています。白老港では、貨物船の安全航行、荷役を安全に行うための防波堤を整備しています。
これらの整備により、国内外の物流、産業を支える経済成長に貢献します。

苫小牧港西港区真古舞地区の岸壁整備

白老港の防波堤整備

みなとを核とした魅力あるまちづくり

苫小牧港湾事務所では、周辺の学校や市民などを対象に港湾施設を中心とした「みなと」に親しんでもらうために「みなと見学会」や「出前講座」を開催し、港の役割に関することなどについて紹介しています。加えて、クルーズ船の寄港時には女性ネットワークや地域と連携しておもてなし活動を進めています。このような取り組みを通じてみなとを核としたまちづくりにも貢献していきます。

【目標】 2022年度：12回／年 → 2023年度：20回／年 ※みなと見学会＋出前講座

みなと見学会実施状況

クルーズ船係留状況

浦河港湾事務所におけるSDGsの達成に資する取組について

私ども浦河港湾事務所では、以下の取組をはじめとする各種取組を通じてSDGs（持続可能な開発目標）の達成に貢献するとともに、浦河港など管内の港湾整備と港湾振興活動を通じ、地域の一層の発展を図って参ります。

日本の製鉄業の発展を支える

かんらん岩は、製鉄の過程で発生する不純物の除去に必要な鉱石で、国内では浦河港背後の様似町と日高町の2箇所のみで採掘されています。かんらん岩は、浦河港から全国の製鉄所に移出され、生産された鉄製品は自動車や家電を始め様々な製品の材料となっています。現在は、かんらん岩を積み出す岸壁の静穏度向上を図るため外郭施設の工事を実施しています。

かんらん岩積み出し状況

地域の持続可能な水産業を促進

えりも港の近隣に位置する襟裳岬周辺海域は海の難所であり、多くの海難事故が過去に発生しているところです。また、えりも堆を擁した豊富な水産資源を有する世界有数の漁場の1つが位置していることから、避難港としての役割を果たしています。現在は、港を利用する船舶が安全に避難出来るように外郭施設の工事を実施しています。

水産物陸揚げ状況

みなとを核とした魅力あるまちづくり

浦河港湾事務所では、周辺の学校や町民などを対象に港湾施設を中心とした「みなと」に親しんでもらうために「みなと見学会」や「出前講座」を開催し、港の役割に関することなどについて紹介しています。加えて、クルーズ船の寄港時には地域一丸となっておもてなし活動を進めています。このような取り組みを通じてみなとを核としたまちづくりにも貢献していきます。

【目標】 2022年度：2回／年　→　2030年度：3回／年　※みなと見学会＋出前講座

みなと見学会実施状況

クルーズ船係留状況

釧路港湾事務所におけるSDGsの達成に資する取組について

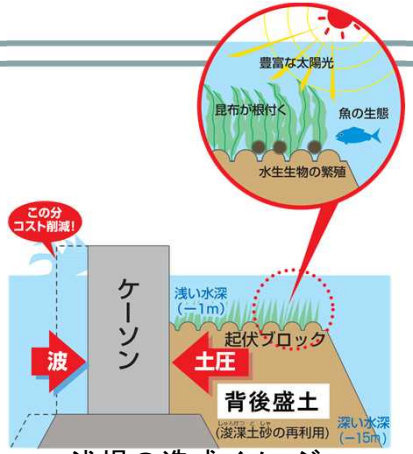
私ども釧路港湾事務所では、以下の取組をはじめとする各種取組を通じてSDGs（持続可能な開発目標）の達成に貢献するとともに、釧路港や十勝港の港湾整備と港湾振興活動を通じ、地域の一層の発展を図って参ります。

日本の持続的な食糧生産を支える

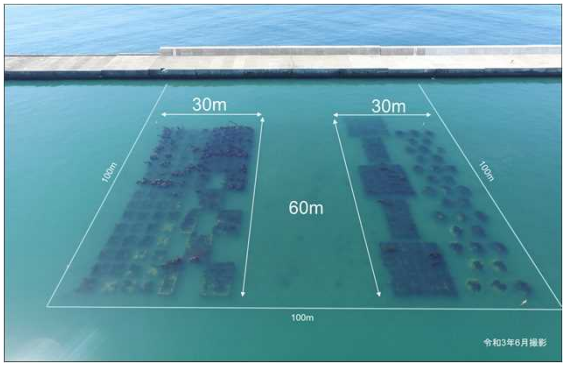
日本の食糧生産基地を背後圏に持つ釧路港や十勝港は、農畜産物の低コスト化・高品質化に欠かせない飼料原料を輸送する大型貨物船が着岸する大水深岸壁等の整備を実施しており、周辺で飼料工場等が操業を開始するなど民間投資も進んでいます。現在は貨物船が安全に入港できるよう、防波堤整備と港内の海底を掘り下げる泊地の整備を実施しています。

カーボンニュートラルの実現を目指して

釧路港の島防波堤は、環境に配慮した防波堤として、浚渫（しゅんせつ）土砂を再利用した背後盛土により浅場を造成し、藻場を創出する機能を持った防波堤工事を実施しています。近年、ブルーカーボンと言われる藻場によるCO_2の吸収効果が世界的に注目されており、島防波堤での吸収量を算定したところ、単位面積あたりで森林の2.4倍のCO_2貯留効果があると推計されました。今後も引き続き、より良い環境創造、ブルーカーボンによる脱炭素社会の実現をめざしていきます。



浅場の造成イメージ



浅場における藻場の生育状況（試験区間）

みなとを核とした魅力あるまちづくり

釧路港湾事務所では、周辺の学校や市民などを対象に港湾施設や船舶等の「みなと見学会」「出前講座」を開催し、港の役割に関することなどについて紹介しています。また、クルーズ船の寄港時のおもてなし活動を「釧路みなとオアシス協議会」と積極的に協力しながら進めています。このような取り組みを通じてみなとを核としたまちづくりにも貢献していきます。

【目標】 2022年度5回→2023年度5回　※みなと見学会＋出前講座

根室港湾事務所におけるSDGsの達成に資する取組について

私ども根室港湾事務所では、以下の取組をはじめとする各種取組を通じてSDGs（持続可能な開発目標）の達成に貢献するとともに、根室港など管内の港湾整備と港湾振興活動を通じ、地域の一層の発展を図って参ります。

農水産物輸出促進の取組

さんま水揚げ全国一位の根室港花咲港区では、屋根付き岸壁を整備し、鳥フンなどの混入や日射による鮮度低下を防ぎ、品質の保持・向上を図るとともに水産物の付加価値向上・輸出促進を進めています。現在、1棟目の屋根施設が完成し利用を開始しており、引き続き、2棟目の屋根付き岸壁の工事を実施しています。

整備前

整備後

地域の持続可能な水産業を促進

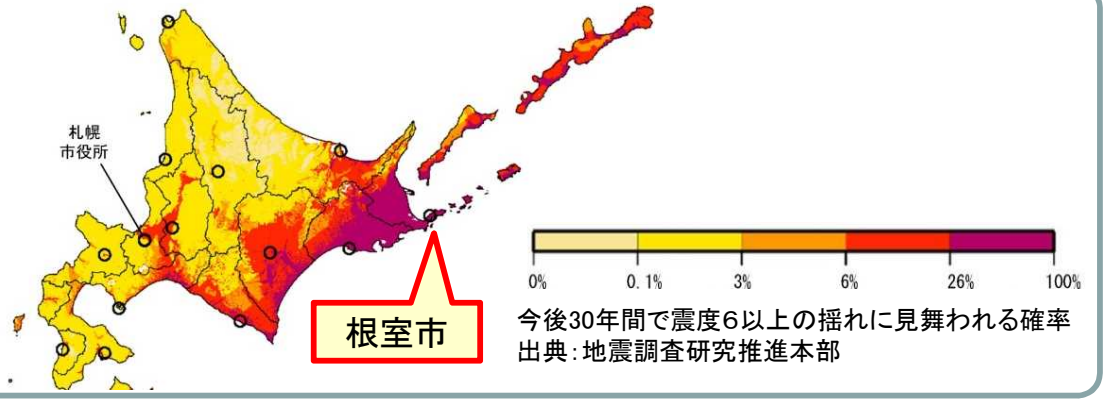
根室港・霧多布港は、北海道東部の水産拠点として重要な役割を担っています。港湾施設の整備が進められる一方で、整備した施設の老朽化が進行しているため、施設点検を行い、計画的かつ効率的に改良工事を行っています。現在、根室港（根室港区）では、船揚場の改良工事、霧多布港では北防波堤の改良工事を実施しています。

改良前

改良後

大規模自然災害に備えた防災力強化

根室港は、全国有数の水産拠点であると同時に物流拠点として重要な役割を担っています。千島海溝沿いの根室沖巨大地震については今後30年以内の発生確率が80%以上と切迫する中、耐震強化岸壁などのハード対策と合わせて、BCP策定や防災訓練実施などソフト対策にも参画することで地域の防災力を高めています。



今後30年間で震度6以上の揺れに見舞われる確率
出典：地震調査研究推進本部

網走港湾事務所におけるSDGsの達成に資する取組について

網走港湾事務所では、以下の取組をはじめとする各種取組を通じてSDGs（持続可能な開発目標）の達成に貢献するとともに、網走港の港湾整備と港湾振興活動を通じ、地域の一層の発展を図って参ります。

日本の持続的な食料生産を支える

網走港では、小麦移出に対応した「小麦集出荷施設」が平成26年から稼働したことで、より効率的な荷役が実現し、小麦の取扱量が増加しています。また、背後圏の製糖工場で使用される燃料用石炭の輸入拠点となっており、周辺地域の産業を支えています。現在は、新港地区の静穏度向上による安定的な荷役機能の確保を目的に、防波堤整備を行っています。

小麦の集出荷施設と荷役状況

防波堤の延伸

みなとを核とした魅力あるまちづくり

みなとオアシス網走では、流氷観光砕氷船の発着場所ともなる「みなと観光交流センター」や、周辺に整備される親水施設等を活かした交流拠点づくりを推進するとともに隣接する中心市街地と連携した地域活性化目指していきます。網走港湾事務所では、みなとオアシス網走と協力しながら、みなとを核としたまちづくりにも貢献していきます。

みなと観光交流センター「流氷街道網走」

流氷観光砕氷船「おーろら」

みなとに対する学習機会の提供

網走港湾事務所では、「みなと」について関心を持ってもらい、その役割を理解していただくために、小学校の児童を対象に「みなと見学会」を開催しています。見学会では、港湾業務艇「はまなす」に乗って、海の上から「網走港」を見学する取り込みを行っています。

【目標】2022年度2回→2023年度2回　※みなと見学会＋出前講座

紋別港湾事務所におけるSDGsの達成に資する取組について

紋別港湾事務所では、以下の取組をはじめとする各種取組を通じてSDGs（持続可能な開発目標）の達成に貢献するとともに、紋別港の港湾整備と港湾振興活動を通じ、地域の一層の発展を図って参ります。

農水産物輸出促進の取組

紋別港では、施設の老朽化対策と併せて、主力であるホタテ等の陸揚げ作業に対応した屋根付き岸壁の整備を行っています。
屋根付き岸壁により、陸揚げ・荷さばき作業時の就労環境が改善するとともに、水産品の清潔保持や品質向上により、輸出促進が期待されており、紋別市内の水産加工場等では設備投資が行われるなど民間投資も進んでいます。

みなとを核とした魅力あるまちづくり

「みなとオアシスもんべつ」では、紋別港港南地区で開催されるイベントを主催するとともに、2014年から「みなとオアシスSea級グルメ全国大会」に出店し、地元開催となった2018年の全国大会inもんべつでは優勝の成績を収めるなど、紋別港のPR、振興活動に取り組んでいます。
紋別港湾事務所では、「みなとオアシスもんべつ」や女性ネットワークと協力しながら、みなとを中心としたまちづくりにも貢献していきます。

みなとに対する学習機会の提供

紋別港湾事務所では、「みなと」について関心を持ってもらい、その役割を理解していただくために、周辺の学校や市民などを対象に「みなと見学会」を開催しています。見学会では、流氷観光船「ガリンコ号」に乗って、海の上から「紋別港」を見学する取り込みを行っています。

【目標】 2022年度1回→2023年度1回　※みなと見学会＋出前講座

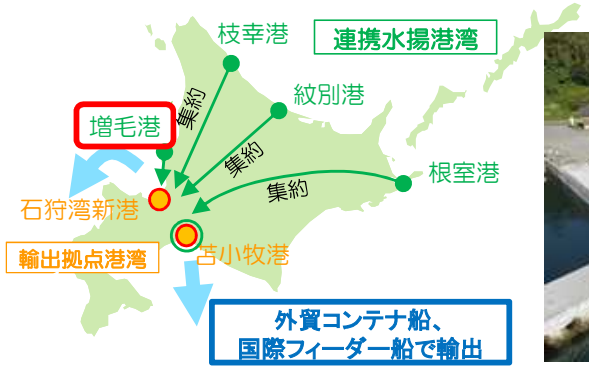
留萌港湾事務所におけるSDGsの達成に資する取組について

私ども留萌港湾事務所では、以下の取組をはじめとする各種取組を通じてSDGs（持続可能な開発目標）の達成に貢献するとともに、留萌港など管内の港湾整備と港湾振興活動を通じ、地域の一層の発展を図って参ります。

農水産物輸出促進の取組

2017年5月、道内の6港湾管理者らが策定した「農水産物輸出促進計画」が、全国で初めて国土交通省港湾局長から認定され、水揚連携港湾である増毛港においては、サケ等の海外への輸出促進を図るため、屋根付き岸壁を整備しました。

※農水産物輸出促進計画：新たな成長分野として見込まれる農水産物の輸出増加に対応するため、国土交通省では戦略的に輸出に取り組む港湾において、農水産物の輸出促進に資する施設の整備を支援し、輸出促進を図る制度を創設しました。

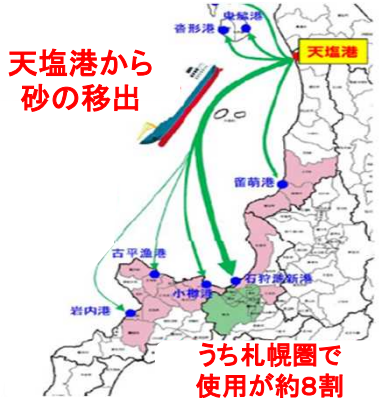


増毛港屋根付き岸壁の整備

基幹産業の持続的な発展を支える

留萌港は、港内に侵入する来襲波により泊地が擾乱するため、防波堤整備により、荷役作業や船舶航行の安全を確保します。
天塩港では良好な砂を積み出しており、主に石狩湾新港を経由して札幌圏で使用され、北海道新幹線工事や北海道ボールパークFビレッジ建設等で用いられるなど大規模な建設事業の骨材需要を支えています。現在、留萌港湾事務所では砂運搬船が安全に入出港できるよう浚渫（しゅんせつ）工事を実施しています。

留萌港　防波堤越波状況



離島における産業とくらしを守る

羽幌港は、離島である天売港、焼尻港との唯一の交通手段であるフェリーが就航しているほか、周辺海域は武蔵堆と呼ばれる好漁場となっており、離島の生活や観光、漁業などの基幹産業を支えています。現在、留萌港湾事務所では付近を航行する漁船が利用する物揚場の整備を進めております。

羽幌港　フェリー混雑状況

羽幌港　物揚場整備状況

稚内港湾事務所におけるSDGsの達成に資する取組について

稚内港湾事務所では、以下の取組をはじめとする各種取組を通じてSDGs（持続可能な開発目標）の達成に貢献するとともに、稚内港など管内の港湾整備と港湾振興活動を通じ、地域の一層の発展を図って参ります。

歴史的構造物「北防波堤ドーム」の保全と活用

稚内港の北防波堤ドームは、1936年に竣工した岸壁の防護施設であり、古代ローマ建築を彷彿させる半アーチ式ドームです。土木学会選奨土木遺産、北海道遺産にも選定されている歴史的構造物であり、現在は自治体や女性ネットワークと連携したイベントや観光客で賑わう交流拠点としての役割も担っています。将来に渡り現況の姿を保全し、確実に港湾施設の機能を発揮できるよう整備を進めています。

地域の持続可能な水産業を促進

オホーツク海に面する宗谷港、枝幸港では、基幹産業である水産業の一大拠点として重要な役割を担っております。

枝幸港では屋根付き岸壁の整備を進めており、水産物の品質確保により、更なる輸出促進を目指し、2030年の農林水産物・食品の輸出額5兆円の政府目標達成に貢献していきます。

また、宗谷港においても、利用船舶が多く、小型船の混雑を解消し効率的な水揚げを行うため、係留施設等の整備を進め、水産業を支えていきます。

離島における産業とくらしを守る

利尻島（鴛泊港、沓形港）、礼文島（香深港）には、本土と離島間を結ぶ利礼航路が就航しています。島民の生活に欠くことができない人流・物流拠点として重要な航路であるとともに、観光産業も支えています。

島民の暮らしを支えるフェリーの安全な入出港、また、離島の地域経済を支える港湾貨物や基幹産業である水産業の振興のため、稚内港湾事務所では、防波堤や岸壁などの整備を進めています。